



⑥神様に供えるものを料理したという「まないた石」は社殿のすぐ側にある



⑧大滝にてマイナスイオンを体一杯に浴びた二人は気持ち良さそうに体を伸ばす



⑨大箱地内にある「鬼塚」は伝説を体感できる数少ない場所である



⑦岩井戸と呼ばれている洞窟跡。輪島市大川の白崎までつながり、イカがあがったといわれている。ここに猿鬼が住み着いていたのだろうか



⑩伝説ゆかりの地には、石碑が建てられ由来が書かれている。すべてを巡ってみるのもよい探訪となる



③岩井戸神社に通じる県道付近はトイレや駐車場が整備され、大きな看板が目に入る



④川の流れる音と森の澄み切った空気が訪れた人を伝説の中へと案内する



⑤町野川沿いに立つ社殿は洪水でたびたび流され、現在の地に落ち着いた

ほとほとと 行くや当目の岩屋堂へ
二度と帰らん ああ釜ヶ谷



①猿鬼伝説発祥の地といわれる輪島市大西山の「釜淵」。連なる淵は猿鬼の足跡といわれており、逃げる時に淵の底に「ほとほとと～」の句を刻んでいったという



②猿鬼が大西山から逃げる際に踏み割ったとされる「三岩」。周りの景色に不自然な巨石が伝説を感じさせる



©永井豪/ダイナミックプロ

コで目を洗ったという大箱地内にある鬼塚に向かう。田んぼの真ん中にある駐車場に車を止め、急な階段を降りると川沿いに一段盛り上がった塚があった。

秋本「ここに退治された猿鬼が眠っているんですね」

高山「伝説ゆかりの地名がたくさんある中で、岩井戸神社とこの鬼塚が伝説を体感できる貴重な場所といえるわね。他に伝説を伝える物としては、昔**猿鬼大明神**という像があったの。近くの行念寺で管理されていて、毎年春と秋の2回行われていた**猿鬼講**という講会でお披露目されていたらしいわ。猿鬼講というのは住職が岩井戸神社に伝わる**猿鬼岩屋堂伝記**を奉読していたものなんだけど、像と伝記が1859年の大火で焼失してしまっただけは行われてないみたい。

それから鬼塚にいたずらをする大雨が降るともいわれているので決していたずらをしてはダメよ」

秋本「はい！それにしても猿鬼伝説って、柳田だけじゃなく広範囲に伝わっていて、体感できる場所もあって、伝説ゆかりの地名もたくさん残されていて…猿鬼は本当にいたんでしょうか？高山さん」

高山「猿鬼はいるのよ。そんな風に猿鬼のことを考えて、伝説を身近に感じられたあなたの心の中に…」

岩穴から神社に戻った二人はさらに上流にある大滝に向かった。

秋本「こんな所に滝があったんですね。マイナスイオンたっぷりって感じで、気持ちいいですね」

高山「この滝は猿鬼が行水していたと伝えられている滝なの。向かって左側は千徳と呼ばれている地区よ。昔は千徳といって筒矢に塗った千の毒をこの辺りで採取したと伝えられているの。次は猿鬼の亡骸が眠る鬼塚に行きましょう」

車を走らせ、神馬をつないだという駒寄を左に曲がり、猿鬼がオオバ

当たった形状の全国唯一の紋章であるという。よく見ると社殿にはたぐさんの紋章が見られる。橋を渡り、神社にお参りしたあと、下流にある岩穴の跡に向かった。

秋本「この机みたいな石は何ですか？」

高山「これは神様に供えるものを料理したという**まないた石**と呼ばれる石なの。

ここが、猿鬼が住んでいたといわれている洞窟の入り口よ」

秋本「4メートルくらいの亀裂がありますね」

高山「この洞窟は輪島市大川の白崎につながっていて、昔は潮の満ち引きがあり、イカがあがったりしたと伝えられているのよ」



猿鬼に魅せられて

当目地区の人々によって語り継がれてきた「猿鬼伝説」。この伝説が現代の私たちに伝えることは何なのか？猿鬼伝説に深く関わる3人に集まってもらい、話を伺いました。

「向峠さんにお聞きします。「猿鬼」を活かした地域おこしはどのように始まったのでしょうか。」

向峠 昭和62年に当目地区の若者7人が「明日の当目を考える会」を結成し、猿鬼伝説でオンリーワンの地域おこしを考えました。そして地域全体を巻き込む必要から活動母体を当目公民館に移していきました。

ちょうどそのころ、ホノルルマラソンのようなふれあいのマラソン大会を模索していた柳田村走ろう会と猿鬼を有名にしたい当目地区の思いが一致して「猿鬼歩こう走ろう健康



向峠智隆 (当目)
元当目公民館長、猿鬼健康大会会長、岩井戸神社氏子総代

大会」が誕生しました。初代会長には宮本康一さんが就任し、第15回大会まで精力的に大会を引っ張っていただきました。また、永井豪先生にデザインしていただいた「猿鬼くん」についても、宮本さんが何度も手紙をやりとりして一年がかりでアプロ一チし実現しました。

今後は、能登ワイン「猿鬼伝説」や「猿鬼そば」などもあります。猿鬼の名前を使った商品を開発したりして、当目と猿鬼を結びつけた地域おこしを考えていきたいと思っています。

「向峠さんにお伺いします。旧当目小学校の教頭時代、5年間にわたり猿鬼伝説について調べられて「伝え残したい私たちの宝『猿鬼伝説』』という本を編纂されたわけですが、当時を振り返っていかがですか。」

向峠 当目小学校に来る前、柳田中学校時代に当目出身の生徒と猿鬼について少し調べたりしていました。その後、当目小学校に赴任したときに、当時の当目小学校の子どもたちで伝説を語れる子が少なかったんです。わたしは、将来子どもたちが都会へ出て、家族と故郷に帰ってきた



仲谷由美 (天坂)
元当目小学校教頭、資料集「猿鬼伝説」編集、教育委員

ときに「ここに何々があるんやぞ」と自分の故郷を語れるようになって欲しいと思っています。それが当目では「猿鬼伝説」だったのです。そして子どもたちの夏休みの研究と一緒に、「先生も夏休みに猿鬼を研究して、休みが終わったらみんなにお話するね」と言ったのが最初のきっかけでした。

猿鬼を調べるためにいろいろな所を飛び回りましたが、その時にここにいる向峠さんや高市さんの他にも歴史学者の先生や当目出身で県外におられる方など、たくさんの人と出会えたことがわたしにとっての大きな財産となりました。

これも猿鬼伝説の魅力がわたしとみなさんをつなげてくれたんだと思っています。

向峠 本当にいろいろな所に行きましたよ。

仲谷 わたしは当目の人間ではないので、どこかへ行く時には必ず当目地区の人を誘って行くようにしていました。各地で開催されていた鬼サ



ミットにも全部に参加し、北海道から四国まで全国いろいろな場所に行き、たくさんの人に出会えたので本当に楽しかったですね。

「本を出版されてから新しい発見などはありましたか。」

仲谷 新しい発見は特にありません。わたしたちが注意しなければいけないことは、新しい発見をしたからといって、伝説とか昔話を「こうでなくてはいけない」とか「これが正しい」というふうに言ったり、装飾してはいけないということ。もっと素朴な、飾られていない本当の話の次の世代に伝えていきたいと思っています。

向峠 わたしたち当目の人間から言わせていただくと、仲谷先生が埋もれていた猿鬼伝説という宝物を掘り出してくれたような、そんな思いがしますね。当時は当目の人も、不思議と仲谷先生について行ったものですが、今考えるとこれも「猿鬼」の神様の思召しなのかなあと思っています。

「高市さんは能登ワイン「猿鬼伝説」や「猿鬼そば」など猿鬼をテーマにした商品を開発されていますが、高市さんにとっての猿鬼とはどんなものなのでしょう。」

高市 ブルーベリーでワインを造りたいという始めたのが昭和61年から、ワインは63年に誕生しました。



高市範幸 (柳田)
能登ワイン「猿鬼伝説」や自身が営むそば屋で「猿鬼そば」などを開発

その時にワインの名前に猿鬼伝説を使おうということになりました。「猿鬼ワイン」などの意見がありました。が、わたしは漢字4文字のワインに思い入れがあったので、能登ワイン「猿鬼伝説」がどうかと提案し、それでいこうとなりました。

それからわたしは「猿鬼伝説」のことを非常に意識するようになり、京都の童話作家の先生に童話に出来ないかとお願ひしたり、「日本昔ばなし」というテレビ番組に陳情したりもしました。

また、わたしも仲谷先生に刺激されて猿鬼を通じた出会いがとても大切であると思い、ウルトラマンの脚本で有名な赤井鬼介さんを長野県まで訪ね、猿鬼の話をしたこともありました。その時に赤井さんが話された「鬼は正義の味方」という言葉が強く印象に残り、鬼とは何だろうと考えました。昔は子どもものしつけに鬼が使われたりしていましたが、鬼は大きな存在のもので、悪い心を退治してくれるものであると考えまし

た。そして「鬼になる勇気が必要」と考えるようになり、周りに何を言われようが、自分を貫き通す「鬼」となって、新しい文化を創っていかねばと思うようになりました。

猿鬼を意識し、たくさんのお会いが生まれて、わたしもどんどん猿鬼伝説に惹かれていったわけです。先ほど仲谷先生がおっしゃられた猿鬼伝説の魅力ですが、今考えると魅力という漢字には「鬼」という文字が含まれているんですね。

そんな風にブルーベリーワインから始めて、炭の粉を入れた「猿鬼そば」を作って、当時水道も電気もないところにそば屋を開いて「ありやだらでないが」と言われましたが、自分は猿鬼みたいなもんやけど退治はされん、5年10年したときに、きつとわかってもらえるような「猿鬼」でいたいなあと思っています。

伝 説を町の宝物として、地域おこしに活かしたい。大切に伝えていきたい。かたくなに生きる猿鬼になりたい。3人の「猿鬼」が語った「猿鬼伝説」に対する思いの中には能登町がこれから猿鬼伝説をどうしていくのかというヒントがたくさんあったのではないかと。猿鬼伝説には不思議な魅力があると3人は口をそろえる。猿鬼ゆかりの地を巡った高山と秋本、そしてこの特集を企画・編集した自分も感じることができた猿鬼の魅力がたくさんの人に伝われば、猿鬼伝説が本当の「町の宝物」になるのではないだろうか。

伝説に興味があれば、この広報を片手に伝説の地を訪ねてみてはどうだろうか。

心の中の猿鬼に会いに…

猿鬼くんのデザインは、輪島市出身の漫画家「永井 豪」



©永井豪/ダイナミックプロ

猿鬼歩こう走ろう健康大会のイメージキャラクター「猿鬼くん」は93年に実行委員長を務めた宮本康一さん(笹川)が永井さんに依頼し、94年の大会から使用されました。

能登町誕生を記念し、実行委員会がデザインの一新を依頼したところ、永井さんは快諾。2代目猿鬼くんは「猿鬼が奥能登の野山を駆け巡るイメージ」でデザインされたそうです。



永井 豪 (ながい ごう)
輪島市出身。手塚治虫の漫画に出会い漫画家を目指す。昭和43年「ハレンチ学園」が大ヒットし社会現象を巻き起こす。他に「デビルマン」「マジンガーZ」など多数の代表作が世界的な人気となる。

伝説の街道から誕生した ビッグイベント



集まった1,850人!

「猿鬼伝説」を目玉に、秋の装い深まる柳田地区の自然や文化に触れることができる「猿鬼歩こう走ろう健康大会」。9月25日、柳田運動公園をメイン会場に開催されたこのイベントは、自分の体に合わせたコースを選び、子どもからお年寄りまで幅広く参加して、楽しく歩いたり走ったりすることができます。その昔、猿鬼が駆け巡ったとされる岩井戸地区をはじめ、「猿鬼」ゆかりの地を回るコースや、本格的なハーフマラソンコースなど全18部門が用意されている、能登町を代表する秋のスポーツイベントなのです!

昭和62年、猿鬼退治の地である当地区の若者たちの呼びかけに柳田走ろう会が応え、第1回大会の開催が実現。今年で19回目を迎えました。メイン会場では、さまざまなアトラクションや地元の特産品などがならび、大会を盛り上げていました。ゴールした参加者には、無料のスリワリ汁やスポーツマッサージのサービスなども準備され、それぞれ思い思いに大会を楽しんでいました。



もーハハッ! とん!

第19回大会成績【走ろうの部】

◆ハーフマラソン高校生〜49歳男子

優勝	高田 和義 (金沢市)	1時間16分53秒
2位	蒲池 一也 (輪島市)	1時間23分09秒
3位	安藤金三郎 (金沢市)	1時間23分39秒

◆ハーフマラソン50歳以上男子

優勝	宮嶋 弘 (かほく市)	1時間32分31秒
2位	横 信一 (金沢市)	1時間33分46秒
3位	河崎 重宏 (能登町)	1時間35分58秒

◆ハーフマラソン高校生以上女子

優勝	中條屋理恵 (河北郡)	1時間30分51秒
2位	西野 直美 (富山県)	1時間32分05秒
3位	伏見谷恵子 (珠洲市)	1時間42分32秒

◆10km高校生〜49歳男子

優勝	竹森 賢生 (門前町)	33分25秒
2位	垣内 和彦 (珠洲市)	35分38秒
3位	加藤 保 (羽咋郡)	37分40秒

◆10km高校生以上女子

優勝	久利須 隆 (金沢市)	39分10秒
2位	松山 和能 (河北郡)	39分31秒
3位	三宅 正一 (かほく市)	41分19秒

◆10km50歳以上女子

優勝	佐々木英里 (富山県)	39分55秒
2位	森 薫 (珠洲市)	46分17秒
3位	川上智絵美 (輪島市)	49分44秒

◆5km高校生〜49歳男子

優勝	源 直樹 (能登町)	17分28秒
2位	岡田 雅宏 (輪島市)	17分38秒
3位	蒲池 淳二 (輪島市)	17分58秒

◆5km50歳以上男子

優勝	陰井 義正 (新潟県)	19分30秒
2位	梶浦 弘道 (羽咋郡)	19分57秒
3位	小森 孝一 (穴水町)	22分56秒

◆5km高校生〜49歳女子

優勝	奥野 望美 (能登町)	19分10秒
2位	石田 良子 (能登町)	23分24秒
3位	田保美穂子 (珠洲市)	24分39秒

◆5km50歳以上女子

優勝	酒谷 洋子 (珠洲市)	22分19秒
2位	網島由美子 (七尾市)	22分57秒
3位	細川 里美 (羽咋市)	27分13秒

◆3km高校生以上男子

優勝	川田 悦士 (富山県)	10分09秒
2位	森田 達也 (穴水町)	10分25秒
3位	尾久 智希 (珠洲市)	10分42秒

◆3km中学生男子

優勝	居村 香織 (珠洲市)	14分27秒
2位	宮野まさみ (珠洲市)	16分23秒
3位	瀬戸口英代 (珠洲市)	16分34秒

◆3km中学生女子

優勝	山崎 廉 (門前町)	10分02秒
2位	森田 恭平 (穴水町)	10分22秒
3位	高井 凜 (珠洲市)	10分56秒

◆3km小学生男子

優勝	信田紗由里 (能登町)	12分33秒
2位	森田 晴香 (穴水町)	13分09秒
3位	石崎 春香 (能登町)	13分18秒

◆3km小学生女子

優勝	長谷 美亜 (金沢市)	12分48秒
2位	信田有里彩 (能登町)	13分00秒
3位	西 かえで (能登町)	13分08秒

